

会長挨拶

一般社団法人日本生産管理学会 代表理事・会長 石倉 弘樹



故人見勝人先生によると生産管理とは「製品として機能を果たす良質なものを、必要な量、迅速（必要な時に）、かつ安価に作ることを円滑に遂行する機能」であります。第三次産業に従事する人が増加する中、本学会でもサービス業や農業と連携したビジネスに生産管理の機能を応用する研究が活発になっております。多くの人命に関わる深刻な新型コロナ感染症の拡大に産業界が柔軟に対応するためには、仕事を行う多くの人が生産管理の考え方を身に着け不確実性の中で合理的に行動することが大事だと考えます。自動車や家電製品等の製造業において、固有技術と生産管理のレベルの高さで世界をリードした日本のビジネス競争力は情報化社会に入り、ものづくりとサービスが

情報技術によって融合化される中で陰りがでてきています。アメリカに見られるように新しいプラットフォームを作り、それを独占する巨大企業が世界のビジネスをリードしています。これらの巨大企業では従業員一人当たりが生む、ものやサービスの量が圧倒的に大きいといえます。付加価値労働生産性に大きな差が生じています。情報化社会においては優れた種類のサービスやものを世界中の人が利用できるため、世界をリードする巨大企業のものやサービスが多くの人に使われています。このものやサービスの生産性の高さは、情報化社会以前に教育を受けた私のような技術者が考える工夫・改善により品質や機能を高めたものを迅速に無駄なく作ることでより向上を図る生産性とは違った見方がないと分析できないでしょう。ただ従業員一人当たりのものやサービスの生産性を上げることは、本来の生産管理が持つ大きな目的のひとつであり、本学会にはその元になる基礎的な考え方が蓄積されています。今後のデジタル社会の進歩の中 AI やロボットを含め生産管理の状況は変わるしかなく、これからのビジネスを考える若い方々にとっても広い意味の生産管理は大変魅力的で夢のある分野であると信じます。

歴代会長 児玉正憲先生、澤田善次郎先生、福井幸男先生が進めてこられたビジネスにおける「理論と実践の融合をめざす」学会として、会員の方々の知的好奇心を満足し、現在世界で進んでいる学会の連合的な組織化に参加し、会員の方々が世界的な業績を上げられる組織を目指して微力を尽くしたいと存じます。本学会の会長を仰せつかるには無能であります。社会に大きな変化が起きて学会の果たすべき仕事が変わっている中、それを理由に休んでいる暇はないと自覚しております。学会飛躍のために手間を惜しまず小さなことからひとつずつ取り組んでいきたいと思っております。何か問題がありましたら、どのようなことでもおっしゃっていただければ幸いです。一人でも多くの方に会員になっていただき、一緒に学び真摯な議論ができることを願っております。

略歴 1959年生まれ 大阪学院大学 商学部 教授

京都工芸繊維大学大学院博士後期課程機能科学専攻修了 博士(工学)

2020年3月 一般社団法人日本生産管理学会 代表理事・会長に就任

近著 Anshuman Khare (Athabasca University), Hiroki Ishikura, William W.Baber (Kyoto University) Editors, “Transforming Japanese Business Rising to the Digital Challenge”, Springer, 2020